論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	定兼(櫻本) 亜弓
論文担当者	主査 垣淵 正男
	副査 篠原 尚
	副査 若林 一郎
学位論文名	New paste for severe stomatitis in patients undergoing head-and-neck cancer radiotherapy and/or chemotherapy with oral appliance (口腔内装置を使用する頭頸部がん患者の放射線・化学療法による重度口内炎に対する新規ペースト)
論文審査の結果の要旨	
<p>頭頸部がんに対する放射線治療による粘膜障害と口腔乾燥は、頭頸部がん切除後の欠損に使用される有床義歯など口腔内装置の装用を困難にするため、口腔粘膜疾患治療剤、口腔乾燥対策用の口腔ケア用ジェル、義歯安定剤が使用されることが多い。</p> <p>学位申請者は、口腔粘膜疾患治療剤と口腔ケア用ジェルを配合した義歯安定剤は、そのような症例に対して有用性が高いと考え、これらを用いて義歯安定剤に類似した性状のペースト Mixed Paste: MP) を試作しその物性を評価した。</p> <p>MP は、口腔粘膜疾患治療剤であるデキサメタゾン製剤/ 口腔ケア用ジェル/ 白色ワセリンの 3 剤を 30 秒間手練和して調製し、対照としてクリームタイプおよびクッションタイプの義歯安定剤の 2 種を用いた。</p> <p>物性の評価は、粘度・粘着度・溶出度の 3 項目とし、粘度は応力制御型レオメーターを用いて、室温を想定した 25℃と口腔環境を想定した 37℃の 2 条件下で、せん断粘度とせん断応力を評価した。粘着度は試料を 2 枚のステンレスプレート間で圧接したものを、37℃の人工唾液中で振盪した後引張り試験を行い評価した。溶出度は水溶性顔料と各試料を練和した試料を、37℃の人工唾液中に 6 時間浸漬・振盪させ、1 時間毎の吸光度を定量した。</p> <p>物性評価の結果、MP の粘度はクリームタイプの義歯安定剤に近似しており、25℃条件下でも 37℃条件下でも変化がないため、温度依存性が低く安定していることが示された。粘着度は 2 つの義歯安定剤の中間的な値を示した。溶出度は口腔粘膜疾患治療剤や口腔ケア用ジェルより低く、局所滞留性が高いことが示された。</p> <p>以上により、MP は口腔内装置を安定させることが可能な粘度・粘着度を持ち、その成分が時間経過とともに持続的に溶出する物性を有すると考えられた。従って、持続的な口腔湿潤効果と口腔粘膜障害への治療効果を期待できる義歯安定剤様のペーストであることが示唆された。</p> <p>申請者が本研究で示した内容は、頭頸部がん患者の摂食機能改善による QOL 向上、ひいては生命予後改善にも寄与する斬新な知見であり、学位授与に値すると評価した。</p>	